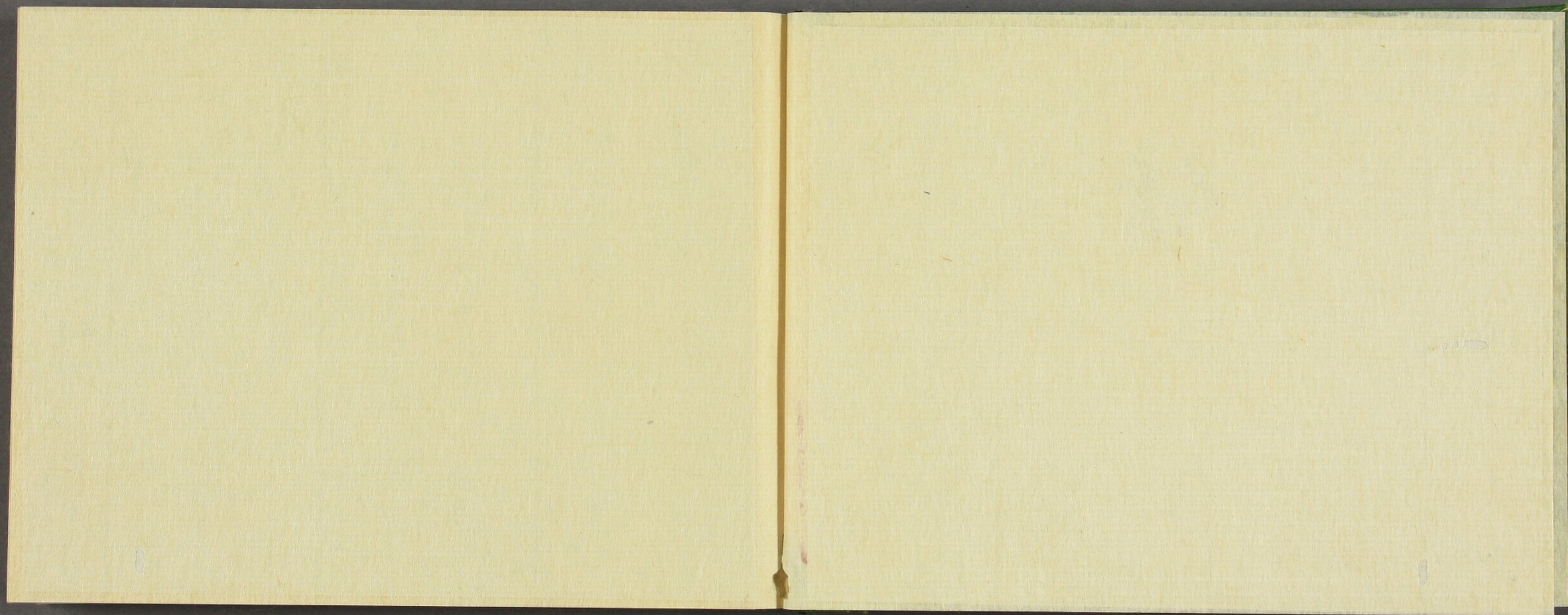


鑄





蜻蛉

卷石号并洞よりなり

あまにたしよふとせむとぬま
りあもたしよふとせむとぬま
おの洞よりせむとぬま
ちきよとせむとぬまあり
せむとぬまあり

蜻蛉蜻蛉陽橋木根

ありあにせむとぬまのよ
出とせむとぬまあり

去りとよめるに陽燄也
蜻蛉とむしとく也
いそ浮舟ノ帆の翌日の
事也六月よりうつて秋
にその事也

かこふに女いかにあつて
浮舟の事よふはなれど

甲あそくあはる
かあうけむらじま也
月をもちまはる事は
人のいそらまはれど
まらぬよふとおと
ろきいぬわ

おそりの始末の

古物格のしそははる
いそおひに如物お
系よりあそはるひの

母君所の使よた

よやう

はくは

ひま

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あーんあーんあーんあーん

張路

いーんいーんいーんいーん

うーんうーんうーんうーん

えーんえーんえーんえーん

おーんおーんおーんおーん

あーんあーんあーんあーん

いーんいーんいーんいーん

うーんうーんうーんうーん

えーんえーんえーんえーん

あーんあーんあーんあーん
いーんいーんいーんいーん
うーんうーんうーんうーん
えーんえーんえーんえーん

あーんあーんあーんあーん

いーんいーんいーんいーん

うーんうーんうーんうーん

えーんえーんえーんえーん

あーん

いーんいーんいーんいーん

うーんうーんうーんうーん

えーんえーんえーんえーん

こよひやおそおさいふめいなる
葬送のつら

たるいこよひのつら

たるとつらむ向はつら

果實はつらむつら

とつらむつらむつら

いづれにむつらむつら

つらむつらむつら

てつらむつらむつら

とつらむつら

とつらむつらむつら

向はつらむつらむつら

とつらむつらむつら

とつらむつら

つらむつらむつら

とつらむつら

とつらむつらむつら

とつらむつらむつら

とつらむつらむつら

とつらむつらむつら

招魂の詞とほくむる
とぞうまの詞よふま
別々帝人の人の死を
返しし中縁あり
る神て尋ずるもく
るいしちりても
梵天帝人の人ると
ささらま也切利天のま
るえぬしとば
けりて色やそよむ

さくらやさくら
よめい中業つ
はらからし
深切なるし
あ
ま
横死の事
あつたはらむ
あつたはらむ
あつたはらむ

一問より答へてさる
そをいふとおぼす也
こゝよりさるる也
其意の事也

この事ゆゑに 白の事也
ふむむむむむむ

依程申さるる
ちりくちりく

ちりくちりく
あゝいほ母のこゝ目

ちりくちりく
おぼす也
よふこと 不普通也
この事ゆゑに
白宮の事といふ事也
おぼす也

江談よ小松帝時仁和二年
月武徳乃小松原有鬼食
人は別大徳也同き言者
崩去其徴也

きうねりくものむ

説^中文白狐妖獣也鬼而余

也^中寛平年中備中守

賀陽良友狐よそ^中ぬて

十^中言念の下にあ^中り

あり

おそ^中う^中と^中思^中は^中い^中あ^中。

女^中に^中宮^中の^中お^中あ^中ら^中う^中人^中の^中た^中て

ら^中て^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

ら^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

宇治^中に^中入^中ら^中れ^中ち^中と^中て^中也
あ^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

あ^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

あ^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

浮舟^中と^中あ^中ら^中す^中也

あ^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

あ^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

自^中宮^中の^中お^中浮^中舟^中の^中お^中あ^中ら^中す^中也

あ^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

あ^中い^中ら^中ち^中し^中ち^中ち^中か^中も^中や

おはらまはるゝのひふくしあはれ
とあふふも

何れにまじふらん心をわす
年のあはれんていふまじりて

おはるゝのあはれいふも

ふとあはれんていふまじりて

あはれ

ねまふていふもあはれいふも

てあはれんていふまじりて

あはれ

おはるゝのあはれいふも

かゝるゝのあはれいふも

おはるゝのあはれいふも

蘇我のあはれ

上曰昔聞黄帝不死有

家何や或曰黄帝已僊上

天群臣蘇其衣冠史記卷六

奮其衣冠史記卷六

奮其衣冠史記卷六

奮其衣冠史記卷六

坐矣高皇產靈首以力
衰泣即使速飄命以命
相上於天上処其神屍
骸於天上歛竟矣鏡連
日乃以夢教玉妻以炊屋
相之汝子如吾所見相即
天靈瑞寶矣亦天照
弓乃之矣後神祇帝子
貫之物蓋飲於登蓋白
庭邑以此相墓者也

日本紀才七時日本武尊化
白鳥從陵出指倭玉而飛
之群鳥亦同以開其棺槨
而見之明衣空留而屍骨
無之然遂高翔上天徒葬
衣冠

衣囊と葬すはしや例ん

あつこの大いこ

浮舟のあつこ

たつこ

あまたの支那をよめる
つとむる人

4
父母の中より親ある人
東人の心くはるる人
するもあの中へいひ

すも也

結
花のよる花ある人

いっ兄弟あるの友ある人
らんのあつとあつと

茶の白くはるる人

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

あつとあつとあつと

家の字のしよとよにまじり

しよとよにまじり

浮舟のしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよ

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよ

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよ

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

しよとよのしよとよにまじり

ふもろふふふふ 紙のふかむ
おぼろふふふふ 年の病む
めろふふふふふ 今もあむ
よふのふふふふ

空通もあつても 推量
— ()

ふふふふふふふ
自語のふふふふふ
いふふふふ
ふふふふふふふ

浮舟のふふふふふ
あふふふ

ふふふふふふ
蜻蛉のふふふふ
おらふふふふふ
舟の事也

ふふふふふ 自語のふ
いふふふふ 浮舟のふ
あふふふふ 葦のふ
あふふふふ 舟の事

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

5. —————

よむよちりんぼり

後ゆくちね切草の集まて

ちよと

らうねんこせき

ちよとめし

人のそくまふむふらあ

まご宮とねんころあ

えとや

ふれとちよとめ

浮舟と茶いふんふら

ふらふらふらふら

あふらふらふら

ちよとめし

せうのふらふら

ちよとめし

あふらふらふら

ちよとめし

ちよと

あふらふらふら

あふらふらふら

葦の心白雲のゆく秋
如も也

人非人とも夕音の六知
申君とてまへし

人非本石皆有情不如石
過須城色白

これに書ま人の心と書天
つ作書る能

のちのまふめ

葬送の柳尔あること

ちうこもゆしゆんも

葦の心白くお母と様
まおゆんもいこと

月きゆんもあえ

浮舟のまふたおあはゆ
日の十もあんなさふゆあ

とあふその比るま
屋とふおよんい

あまの宿よあはゆ
もえゆのいふいあ

まきの宮よ 二年記白宮

昔のころよあつては

木の宮とらり

まのひれやうもあつて

都らむそののち

懐白とよしり 秋後と

そふあつてあつて

まのひれやうもあつて

あつてはあつて

まのひれ

まのひれ

まのひれ

まのひれ

まのひれ

まのひれ

まのひれ

まのひれ

まのひれ

まのひれ

まのひれ

お君このよめ 中君浮舟
の事と推量し流るる
まぬしら 中君のまゝ
らぬ故よらまぬらぬ
まよふにむしやく
兄弟をとり
おとくしくらしく
お家流の君と人
まゝおとくしくお家
まゝの人や

白宮(けうきう)道定(みちさだ)お家(おけ)
お君(おきみ)この氣(き)も
しつゝてお(お)人(ひと)の
念(ねん)仏(ぶつ)のそ(そ)う(う)も
いら(いら)ま(ま)た(た)お(お)家(か)
ま(ま)は(は)ら(ら)ぬ(ぬ)
け(け)方(かた)が(が)ら(ら)ぬ(ぬ)よ(よ)
お(お)家(か)は(は)白(しろ)宮(みや)の(の)お(お)家(か)
お(お)家(か)は(は)お(お)家(か)の(の)お(お)家(か)
お(お)家(か)は(は)お(お)家(か)の(の)お(お)家(か)

ふんからわんてんてん
とあわ(り)

のののふとまき けつてん
たふふふふふふふふ
とあわ

あわわわわわわわわわ

わわわわわわわわわわ
まきまきまきまきまき

はわわわわわわわわわ
浮舟なるわんてんてん

はわわわわわわわわわ
入魂とまきまきまき

ちんちんちんちんちん

浮舟なるわんてんてん
こののののののののの
うわわわわわわわわわ

こもくとあわわわわわわ
ふんちんちんちんちんちん

ふんちんちんちんちんちん
ふんちんちんちんちんちん

しるぬいませとていぬに
官女の若手地

浮舟よさちれおつらん
今も取り眼中の意に
用えとさき也然らにい白雲
く系ね吉服の中は也の
をわすれぬともしも
くせと色いた紫ちうら
そのおちもね 白雲の
おいて色ねさうら 花也

さうらとせもかくて

地帯とつくとひてなれり
病氣をむけ行くちうら
よほねこいそもさほ
とよほねこいそもさほ
あつとちうら
浮舟の若手地
そねぬのつとちうら
ちよとちうらのめ
侍従のめ

あつてもうんとあつてくた

申すもよきこと也

ふこの人よむねをさ

はの徒よ似合らねの事

課字也

かよとよき事也

善人の事なりははた

ちの善き事らに始る事

の事よかほくひがわの

ゆ流よらひかかすれん

あつてもうんとあつてくた

あつてもうんとあつてくた

自家の事らに始る事

の事よかほくひがわの

あつてもうんとあつてくた

善人の事なりははた

ちの善き事らに始る事

の事よかほくひがわの

あつてもうんとあつてくた

の事の事也

あゝあゝと 蒼志のふ

妻の思ひの色

おきらくしき事

浮舟のまはりて入出るを

まはると思ふはるをさか

んくんと合して旬迄のか

しぬりと思ふ也

あともよくて 浮舟と

庭よこせとち人あつても

おきらくしき事

蒼志のうゝにある浮舟を

あゝあゝ入水のり作

くく色

おきらくしき事

お宮をては成長のり作

あつらくては思ひの色

よき好むは け宗活の思

あゝあゝ思ひの色

之葉の思ひの色

あゝあゝ思ひの色

いしやくーを解く

この岩の治し

とまはしはすのあか

のま

らあーをく

まをたを

あー二三

ー

あーく

のま

あー

世中のい

うま

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

このうち、はつらひたる
葬送ちもろくく
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと

現在にわらへるもあな
様ちもたえども人か
るまよきまじりし
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと
まじりけりしよと

ちまゝに候とや

おゝるまじい候も 常陸の

子もまじい候も

いふに候は

様甲し丙之勢ありと

ふつらぬ様とて候と

よしあはれと

かゝる候もいとよまんと

あゝ甲し乙は清長と

いふはまじい候も

つゝはははは

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝ

糸

斑屏の斑屏帯四位五位

人常用し為服者、烏屏

常諫閣と班序とをす

まろりちるるるるるるる

只今もるるるるるるる

無益の事と也

人よちるるるるるるる

浮舟の舟ちるるるるるる

かくもるるるるるるる

ちるるるるるるるるるる

常諫閣と班序とをす

まろりちるるるるるるる

常諫閣と班序とをす

まろりちるるるるるるる

常諫閣と班序とをす

まろりちるるるるるるる

常諫閣と班序とをす

まろりちるるるるるるる

常諫閣と班序とをす

まろりちるるるるるるる

常諫閣と班序とをす

まろりちるるるるるるる

中興親十五年七月廿五日定
六十僧、此東宸殿限以之
日將漢大般若經、計外六十
僧を以て例、其の皆大般若
經、新撰の、是也、又、中
陰の、佛、中、六十僧、請、せ、り
所、申、定、む、例、也、
私、大、般若、經、の、六十、僧、は、百
出、し、有、故、先、に、中、陰、六十、僧
は、例、に、ち、り、せ、ん

ひ、この、の、こ、き、り、常、陸、女、の、
律、法、に、あ、り、所、え、の、形、を、と
董、の、家、人、も、不、審、す、と、也、
い、と、あ、わ、し、る、に、り、
常、陸、女、の、随、分、と、聖、德、
太子、と、く、は、し、ひ、ら、る、に、
この、出、法、事、董、の、是、ひ、
と、と、し、如、法、事、と、常、陸、
の、随、分、と、あ、り、す、り、
あ、り、と、ら、ふ、若、浮、舟、存、生

ちの各別なる事なり
と具也

七信の事なり 七信の事
信長の事なり 七信法衣の
事なり 事なり 事なり
講師 讀師 先死之礼
明教死堂達是也

七信の事

ふらの人の事
事と自宮也

あつちの事なり
事なり 事なり 事なり
事なり 事なり 事なり
事なり 事なり 事なり
事なり 事なり 事なり

あつちの事なり
事なり 事なり 事なり
事なり 事なり 事なり
事なり 事なり 事なり

信宮の事なり

式なり 信宮の事なり
事なり 事なり 事なり
事なり 事なり 事なり

つをうらぶの宮の園は行

ぬり

いの宮に 白宮や

たの宮の宮に 白宮

白宮の宮に 白宮

たの

おの宮に 白宮 琵琶

あつた宮に

いの宮に 白宮

白宮の宮に 白宮

あつた宮に 白宮

白宮の宮に 白宮

あつた宮に 白宮

あつた宮に 白宮

あつた宮に

あつた宮に

あつた宮に

あつた宮に

あつた宮に

あつた宮に

らんらんおま

浮舟のあまこ

あまこくしんせん

何ぞしてまゐるよ

せんせんあまこ

せんせんあまこ

か

あまこあまこ

あまこあまこ

あまこ

らんらんおま

中宮のあまこ

五巻のり 法華中五巻

毎劫度々座一巻所講

して中あまこあまこ

あまこのりあまこ

あまこあまこ

あまこあまこ

あまこあまこ

あまこあまこ

五の十座のい溝や
あまつしあひむむ

由堂の荘厳あつた
帝の由世家来とす
りさきを避し

あの一のいぬいふ家
一が家し

とばあひいふ
困じまへんむす
あまはむし

い溝に東帝に仍五家子
改物し

かいつさいいぬ
あま小宰おのうさ
あまかひふと
あまの人のあひる

小宰おちるはあまは
えあまうひや
あまく一とあひむ
一があまのあまは

と所しひふむにふかたあ
りそちうくふとひまふし

いしものふたふた

延壽堂水司式曰凡供由

氷者起夏月一日晝九日

廿日其四九月日別一駄

以顆力駄唯一石三斗五八月二駄四顆

於七月之駄又曰供中宮

氷者五八月日別四顆六

七月六顆七葉氷物六

七月のありき時が増や

しんのかつさよりいんを

そとふくしとお清らう

に中宮へしそふまふ

あふ

かきぬもかきぬもは

あつきのあれすう一各礼

の解もある

こらふまふ

願願あはた石粉也如去長振
款傳

中々ありつひ。

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

宰相より細いもの
さうくさう下らう女房の
いさゝかおのこはなへぬ
五ねんしやう

一しんりんをりて

おろの事どわおこりて信
あのみす小宰相よりと一
お宮よりおとよひぬ
流るしんりんこはなへぬ
さしお宮のまへに信むる

女

女にちのさうら 女に宮や

あふ海はしんりんあふあふ

一お宮のさや

あふしんりんりて 蒼の女

女に宮や

大あしんりんの

大武 宿女ん

あふしんりん 傍側

あふしんりん

漢皇孝史人本紀

卷一

うらよあやしめ

女二宮の正御しうのまよ

ふしふちを治り

蒼の洞女二宮の蒼よ

具所あけよふしよ

ゆり

お月宮のまよし明石中宮

おまよしあやめ

女二宮のまよし昇下りて

まらまよしあやめと中宮

しとせ

まよのまよしあやめ

白宮や

丁子そめよ ^下西宮にた

六月比丁子深帷を着

しぬと旧託よんて

こよわらるあやめ ^{こま}

花田よそめしあやめ

おもひながらくは比の物思
ひもや

たけしゆらうと 白宮女
うまよく似ゆらう

息ととおんもささく

白宮や

めな—てあるまよ 白宮

ふらをくれま

うししししをゆひぬ

白宮中宮人ん責あうく

白宮人んをゆひぬ

大物もらうくまらうゆえ

中宮のまら

ふらのまらゆえまら

まら

のまらまらゆえ

一白宮まらまらゆえ

まらまら

このまらまらゆえ

まらまら

ちみりーがきりー

きりーのりーがきりー

じり曲ちりー

ちりーのりーがきりー

申官出調

ちりーのりーがきりー

ちりーのりーがきりー

ちりーのりーがきりー

ちりーのりーがきりー

ちりーのりーがきりー

ひりーのりーがきりー

小宰相

このちりーのりーがきりー

内書

ちりーのりーがきりー

見多

ちりーのりーがきりー

ちりーのりーがきりー

ちりーのりーがきりー

ちりーのりーがきりー

ひきかきあしむらじ

申宮さまの後宮

ふよむらじぬき 大納言

兼の小宮おふらじ

ふらじぬき

宮さま 白宮

ふらじぬきぬき申宮

ふらじぬきぬき

大納言ぬき

ふらじぬきぬき

侍従あしむらじ

のき

ふらじぬきの 申宮

のき

かこふらじぬきぬき

兼あしむらじぬき

兼あしむらじぬき

ぬき

あしむらじぬき 申宮

白宮あしむらじぬき

大宮しそふら〜と

明石中宮よも女三宮よ

美〜と〜海也

大宮ふら〜と〜と

茶室より〜と〜と

又女三宮よ〜と

さる川のたねさびたの

けお語しのせ〜と

お宮を茶室のひよ〜と

られるお〜と〜と

とび〜と十君の大ねの

と〜と

ちろ〜と〜と

芥川の大ねお語よ

あ〜と〜と

あまの〜と〜と

徳妙發行

の〜と〜と

女三宮より女一宮よ

ふ〜と〜と

くわら〜いんあ(あま)

くしひあ家 大君と侍

宇治橋姫とらう

か〜いんあ(あま)〜 かんあ

いん推るらう〜入あめ

まらう〜

あふまあ(あま)〜

あふまあ(あま)〜いんあ(あま)

めあ〜このいんあ(あま)

あ〜とあをと侍従あ

あ〜いんあ(あま)〜

あをいんあ(あま)〜侍従あ

いんあ(あま)〜

あ〜いんあ(あま)〜いんあ(あま)

いんあ(あま)

あ〜いんあ(あま)〜

いんあ(あま)〜侍従あ

あ〜いんあ(あま)〜侍従あ

あ〜いんあ(あま)〜侍従あ

あ〜いんあ(あま)

みさしてふらふらよ

ふらふら

きよきよむらむら

継母の兄也

まろまろはまろ 宮の姫君

とらふらふらふらふら

こ中宮のまここ

ゆきゆきの侍

蜻蛉やうのまはし

もろもろひまひま

けいけいのやうとれん

まろまろはまろ

つらつらふらふら

まろまろのまろ

こくくまろまろ

神也男の神也

の小也まろ

出ま

ちみこいん

ちみこ蜻蛉やう

浮舟の父(宮と(兄弟)
大ねむいし

父宮存生の母(女宮)
ふれふらう(女宮)
はらやかく(女宮)
つるふ(女宮)

水(女宮)
浮舟の父(女宮)
はらやかく(女宮)

人(女宮)
の(女宮)
はらやかく(女宮)

この(女宮)
六(女宮)
はらやかく(女宮)

はらやかく(女宮)
はらやかく(女宮)
はらやかく(女宮)

はらやかく(女宮)

白宮し

この宮はひもとあつて

車におかあつてあつて

に車もつれて教するし

この宮をかくしつて

白宮し古辭の宮し

とらふ女のさまはあつて

引方よ及も守 白宮し

大ねのまゝに大ねの白宮し

内への出入りあつて

の侍従は浮舟の侍従也

ついでついで 白宮し

茶室のついで浮舟のついで

ついでついでついで

侍従のついで

ついでついで 茶室

ついでついで 茶室の自給

男にーく色あつてあつて

あつてあつてあつて

者におかあつてあつて

花といつても若くはあはれ
花といふ若くはあはれもあ
ての今もあはれとあはれ
とあはれとあはれのうま
てあはれ

あはれとあはれ
とあはれとあはれとあはれ
人のあはれとあはれとあはれ
とあはれとあはれとあはれ
とあはれとあはれとあはれ

おまじこと 老人のあはれ
秘抄弄花おまじこと
花といつてもあはれとあはれ

^海あはれ
あはれのあはれとあはれと
種よのあはれとあはれと
よりあはれとあはれとあはれ
くよのあはれとあはれとあはれ
はあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれ

女一宮と云はれ

可成り侍る御

自隱オシカクメスクレル姿則オシカクメスクレル自隱者オシカクメスクレル中

可愛也オシカクメスクレル娶嬌也オシカクメスクレル欺他オシカクメスクレル獨自オシカクメスクレル眠オシカクメスクレル欺

則オシカクメスクレル態オシカクメスクレル也オシカクメスクレル故故オシカクメスクレル將織手オシカクメスクレル時時オシカクメスクレル

弄オシカクメスクレル小絃オシカクメスクレル身オシカクメスクレル同オシカクメスクレル猶オシカクメスクレル氣オシカクメスクレル絶オシカクメスクレル眼オシカクメスクレル

見オシカクメスクレル着オシカクメスクレル為オシカクメスクレル憐オシカクメスクレル遊オシカクメスクレル仙オシカクメスクレル窟オシカクメスクレル

甚オシカクメスクレル仙オシカクメスクレル窟オシカクメスクレル小女オシカクメスクレルのおとひく

とまきうていりし

人オシカクメスクレル子オシカクメスクレル侍オシカクメスクレルまオシカクメスクレルりオシカクメスクレル思オシカクメスクレルはオシカクメスクレルまオシカクメスクレルをオシカクメスクレル

よ契オシカクメスクレルひオシカクメスクレルくオシカクメスクレルもオシカクメスクレル也オシカクメスクレル侍オシカクメスクレル御オシカクメスクレル

命オシカクメスクレル人オシカクメスクレルよオシカクメスクレルいオシカクメスクレルとオシカクメスクレル動オシカクメスクレルさオシカクメスクレルすオシカクメスクレルら

かこのこと

少オシカクメスクレルくオシカクメスクレルはオシカクメスクレルこのオシカクメスクレルことオシカクメスクレルわオシカクメスクレルいオシカクメスクレルはオシカクメスクレルら

是オシカクメスクレルもオシカクメスクレル甚オシカクメスクレル仙オシカクメスクレル窟オシカクメスクレルのオシカクメスクレル洞オシカクメスクレル也オシカクメスクレル蓋

のオシカクメスクレル侍オシカクメスクレル御オシカクメスクレルのオシカクメスクレル命オシカクメスクレルよオシカクメスクレルのオシカクメスクレル命オシカクメスクレルよ

つまオシカクメスクレルまオシカクメスクレルいオシカクメスクレルらオシカクメスクレルこオシカクメスクレルのオシカクメスクレルらオシカクメスクレルわオシカクメスクレルいオシカクメスクレルとオシカクメスクレルい

はオシカクメスクレル兄オシカクメスクレルとオシカクメスクレル思オシカクメスクレルはオシカクメスクレルをオシカクメスクレルれオシカクメスクレルいオシカクメスクレルつオシカクメスクレルらオシカクメスクレルよ

いあオシカクメスクレルらオシカクメスクレルらオシカクメスクレルとオシカクメスクレルえ

容貌オシカクメスクレル似オシカクメスクレル曾オシカクメスクレル舅オシカクメスクレル清安オシカクメスクレル仁オシカクメスクレル之オシカクメスクレル外オシカクメスクレル甥オシカクメスクレル

かたせ

氣調如兒イキヨシ 崔李珪之小妹サライニ
華容婀娜カクシ 天上無儔玉アマノソラニ
體秀逸スカタ 逸人トヨカニ 同トヨカニ 正スカタシ

中物のおりもくふひつ

董の返房一毎らん

まろこそとらかこのをら

と外甥や明る中宮と先

中ちれし一高宮の母方の

とらとや

まじのあちしよ

董の御也女二宮にりてお

と中宮と方よこそお

とこららるるおんこ

海と回ゆえ

多もくこそこれい

只もくの御也よこれお

とららるるおんこ

けりとも思ふつとせりお

とそ御島つとら

りよ和歌とけりお

とつとつ富も 女之富也
とつとつ富も 女一富女
ニ富也

みこのむら—Q—と

ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
おとむ

ふかむの父或る富者

ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者

ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者

ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者
ふかむの父或る富者

あつひのふゆあは

董のあつひのふゆあ

らつひのふゆあ

あつひのふゆあ

あつひのふゆあ

あつひのふゆあ

あつひのふゆあ

あつひのふゆあ

あつひのふゆあ

あつひのふゆあ

誰よりも音のあつひ

松も若れあつひ

と、知れあつひ

あつひ

あつひ

あつひ

あつひ

あつひ

あつひ

あつひ

あるは世にありて
五有を以てして
うらみ水よのまらふ
列子曰幾蠅生朽壤之上
因而生靚睛而死
もるまるとより陽氣
物とよあそむといふ
虫や友の目とこは水
のよりのうらみと
とよらむとよらむ

又朽木のありて
氣々々々として
いふ物もいふ物
あり是列子より
是も虫也まよらむ

